

# ヴァイオリニストが選ぶ私が最後に弾きたい究極の1曲

ヴァイオリンで奏する名曲は数知れない。その中からたった1曲を選ばなければならぬとしたら、あなたはどんな風に、何を選ぶだろうか。今回、現役ヴァイオリニストに「音楽人生最後の瞬間に弾きたい究極の1曲は？」という問いを投げかけたところ、8人のヴァイオリニストがこの無理難題と真摯に向き合い、答えを出してくださった。ヴァイオリンに人生を捧げる演奏家が最後に選ぶ曲とは……？

## 漆原啓子 ベートーヴェン「ヴァイオリン・ソナタ第10番」



©藤原栄治

たった1曲を選ぶのはものすごく難しく、何日も悩みました。ヴァイオリニスト（に限らず、おそらく演奏家誰しも）にとって「最後に弾きたい1曲」を選ぶには様々な条件を考えなければならぬからです。「最後の演奏」が、何歳のときか。どこで演奏するか。これらすべての条件をどう考えるかによって「演奏できる曲」が限られるためです。年齢が、きっと、最も大きなポイントでしよう。たとえば、パガニーニを90歳で弾けるか。ブラームスの協奏曲を80歳で弾けるか。体力的なことは、演奏において非常に重要です。指がまわるのか？等、年齢と技巧の関係性も重要です。そこで、条件はつきまとうものの、しがらみを一切考えずに選ぶとすればベートーヴェン「ヴァイオリ

## 大谷康子 J・S・バッハ「無伴奏ヴァイオリンのためのパルティータ第2番《シャコンヌ》」



©尾形正茂

最後に弾きたい曲、それはJ・S・バッハ《シャコンヌ》です。ヘンリック・シェリング来日記念コンサート受贈のために、課題曲の《シャコンヌ》を真剣に練習してからのこの作品の偉大さに魅せられました。この作品は全編通してまるで人生を見ているようです。冒頭のテーマはまさに私の演奏活動の始まり……そしてヴァイオリ

## 川島成道 イザイ「無伴奏ヴァイオリン・ソナタ第3番《バラード》」



音楽家人生の最後に弾きたい究極の1曲として、J・S・バッハ《シャコンヌ》を思い浮かべる方は少なくないであろう。確かにシャコンヌを含む「無伴奏ヴァイオリンのためのソナタとパルティータ」全6曲はヴァイオリニストにとってバイブルとも言えるべき作品であり、ヴァイオリン音楽の最高峰にあると言っても過言ではないと思う。私も多くのことをこの作品から学んでいる途上にいる。さらにも一つ付け加えるならば、私にとってのJ・S・バッハはそれ以後の作品を演奏する際、J・S・バッハからの距離を測ることで、それぞれの作品の存在位置とその表現を考えたいわば、道しるべのような存在でもある。現代に生きる自分が選ぶ究極の1曲として、あえてイザイ「無伴奏ソナタ」を挙げたいと考

## 千々岩英一 ショーソン《詩曲》



偏愛するエルガー「ヴァイオリン協奏曲」が人生そのもの、長い旅を感じさせる作品なのかもしれません。過去の演奏経験から言って体力勝負の大作ですので、最後の演奏としては難しいかもしれません。人生最後というところに重きを置いて考えると、「諸行無常」ものあはれを感じさせる作品がいろいろあるのでショーソン《詩曲》を選ぼうと思えます。若くして事故で亡くなったショーンが残した作品には、限りなく洗練されたフランスの佳き時代の美的感覚が反映されており、この《詩曲》や「ヴァイオリン、ピアノ、弦楽四重奏のためのコンセル」は彼でなければ書けなかった独自のエレガンスとエロスの世界です。悲哀感に満ちた《詩曲》の冒頭、そして再現部の一節に人生のすべてを凝縮させることができれば本望でしょう。思いを託して弾けば弾くほど逃げられてしまう難曲ですが、これで最後と割り切つて素直に弾けば、奇跡が起こるかもしれないと信じています。

## 徳永二男 ベートーヴェン「ヴァイオリン協奏曲」



©Hikaru Hoshi

ベートーヴェン「ヴァイオリン協奏曲」は、技術的にそれほど難しい曲ではありませんが、音楽的な表現の難しさに、あれに勝るものはないでしょう。まず、ヴァイオリン・パートのメロディがどこになるのかはつきりとせず、協奏曲と言いつつ、音楽的にはアンサンブルの趣きのある曲だと思います。以前シェリングがN響の定期演奏会でこの曲を演奏した時のこと。練習に現れると、自ら椅子

## 古澤巖 ロベルト・デイ・マリーノ《エスペランツァ》(2015)



今までクラシックからポップスまで、様々な曲を弾いてきた。音楽とは、それを作曲した人の、心。人生。それが自分と重なる時、1枚の楽譜が、現実のドラマとして甦る。この《エスペランツァ》は、人生の最後の曲に相応しい。ピアソラの様に始まる、イタリア

## 三浦文彰 ブラームス「弦楽六重奏曲第1番」



©Yuji Hori

ほかが今の気持ちで最後の曲に選んだのは、ブラームスの「弦楽六重奏曲第1番」です。最後ということでは、最高の音楽仲間とこのブラームスの傑作を演奏したいです。もちろん、他にもベートーヴェン「協奏曲」、バッハ「無伴奏」など弾きたい曲は沢山ありますが、ほかにとってそれは緊張、体力、など様々な面で覚悟が必要になります。

## 渡辺玲子 ベートーヴェン「ヴァイオリン・ソナタ第10番」



©Yuji Hori

「音楽家人生の最後に弾きたい曲」といふなら、他にも何曲か浮かびました。ベートーヴェン「ヴァイオリン協奏曲」やJ・S・バッハ「無伴奏ソナタ」などです。最終的にこの曲を選んだのは、とりわけ第2楽章のもっている何とも言えない親密さと美しさが、演奏家としての最後に表現するメッセージとして最もふさわしいと思えたから。この曲を演奏するとき、自分が宇宙